

春告草

令和3年度 第5号 令和3年8月27日 進路指導部発行

夏休みは有意義に過ごすことができただろうか。5年生、4年生にとって、2学期は進路選択に向けて重要な時期である。9月は学校行事が続き、後期生はその中核として活躍しなければならないが、その一方で学習や日常生活のやるべきことをきちんとこなし、着実に積み重ねていく努力が求められる。

6年生は、休み中にも自主的に登校して、熱心に学習に取り組んでいた。受験勉強に限らず「学習」は、どの教科もすぐに成果が出るとは限らない。目に見える成果や実感がなくても、焦らず、継続することが重要だ。ここで弱気になって、目標を下げてしまう必要はない。浪人生と違って、現役生には最後の最後まで伸びる力があるのだ。

勉強でも、部活動でも、仕事でも、どんなことでも、何かを達成しようとする場合にとるべき方法は、ただひとつ。一歩ずつ着実に立ち向かうことである。努力は実力を生み、実力は自信を生み、自信は合格を生む。自分の力を信じてほしい。

受験生活、後半戦！

6年生は、いよいよ受験生活も後半戦だ。模試や大学入学共通テスト出願の準備などをきっかけに、気持ちを引き締め、全員で受験本番を意識していこう。2学期からの受験勉強の最重要課題は、入試の得点に直結する「解く力」を鍛えることである。そのために欠かせないのが、問題演習だ。質の高い問題演習をこなして、夏までに身に付けた基礎力を「解く力」へと転換しよう。

問題演習で意識すべきなのは、設問の意図や条件(何を問われているのか)、採点基準や解答のプロセス(どこに焦点をあて、どう解き進めるか)だ。これらを見極める意識をもって問題演習に取り組み、採点後は正誤に関わらず解説を読み込んで、自分の知識や考え方、解答の手順を確認しよう。こうした学習を積み重ねることにより、難しい問題でも正解への道筋を見出だせるようになる。もちろん、基礎力不足や知識のむらをその都度補っていくことは言うまでもない。そのために、まずは模試を最大限に活用しよう。

9月の模試は、以下のように目的を明確化して受験しよう。

1. 夏休みの成果と課題を明確にし、今後の学習計画を設定する模試
2. 併願もふくめた受験校の本格的な検討を始める模試
3. 入試本番のシミュレーションを行う模試

夏休みの学習の成果を発揮するだけでなく、今後の目標を打ち立てる重要な模試だ。いまの自分の実力を発揮できるよう、緊張感を持って、試験本番と同様の意識で臨もう。

模試を受ける意義とその活用法

模試には「解く力」を客観的に確認できるというメリットがある。届いた結果を見て判定に一喜一憂し、偏差値を確認して終わりにするだけではいけない。「模試＝力試し」の認識は改めよう。6年生だけでなく、5年生、4年生も7月に受験した模試の結果が返却されたら、以下の内容を参考にし、これからの学力アップに役立てよう。

①自分の弱点を認識できる

これまでの定期考査や模試などで、「自分は〇〇が得意(または苦手)だ」と“なんとなく”感じている人は多いだろう。だが、それを自分自身で客観的に評価するのは意外と難しい。苦手な科目は、なおさらだ。模試の結果は、合格判定や偏差値に意識がいきがちであるが、大事なものは「得点」である。「個人成績票」は科目ごと、分野ごとに、自分が「どの分野で・どの程度」得点できているかわかる。平均点との差や、科目・

分野ごとのばらつきにも注目しながら、客観的に把握しよう。これによって、自分の弱点をより正確に、より詳細に把握することができる。現状をしっかりと認識して、今の自分に足りない学力と、必要な学習を明確にし、入試本番までの学習計画に活用するのだ。

模試を見直すときは、「力を出し切れれば解けた問題」に注目しよう。「時間があれば」「うっかりミスがなければ」など、あと一步で正解できた問題が確実に解けるようになれば、得点が伸びてくる。ほとんどの人が正解できていない問題にこだわるよりも、まずは伸ばせる部分を確実に伸ばし切ることを意識しよう。

②反復演習で実力を強化できる

模試の問題は、その道のプロが“その時期にふさわしい学力”を診断するために作成したものである。模試を受験したら、その日のうちに答え合わせをすることは当然だ。だが、解答・解説を確認するだけで終わってしまっただけでは、もったいない。「分かっていると思っていたのに出来なかった」「単語力が足りないと感じた」、こうした気づきがあるだろうか。気づくことで、その後の具体的な学習指針が見えてくる。「模試の受験」→「復習」→「弱点の強化」のサイクルを確立し、苦手分野の問題や、できなかった問題を確実に強化しよう。

模試で解けなかった問題は、入試本番までに解けるようになっていけばよい。大切なのは、自分の弱点や反省点を振り返り、補強することである。

③試験本番の対処法を学べる

以上のことに加え、6年生は模試を本番の予行演習として捉え、実力を発揮するための「やり方」を学ぼう。例えば、「時間配分の感覚を磨く」「効率的に解き進める順番を探る」といったシミュレーションができるだろう。ほかにも「試験時間中の集中力の高め方」「解答に行き詰ったときの対処法」など、多くのことを学ぶことができる。

また、学校外で行われる「大学別模試（難関大学を中心に、特定の大学の入試に準じた出題が行われる模試）」も積極的にチャレンジしよう。大学別模試には、東大、京大をはじめとした国公立大や、早慶上理などの難関私大対策用などがあり、その大学の出題傾向や出題形式を取り入れているので、シミュレーションには最適である。あらかじめ体験しておくことで、より落ち着いて入試本番に臨むことができるだろう。これらの模試の詳細は、進路指導部より6年各教室へ配布している案内を参考にしてほしい。

入試では、緊張のあまり自分の実力が思うように発揮できなかったり、試験時間内に解答が書き終わらなかったりすることが往々にしてある。本番の入試を意識しながら模試を経験することによって、緊張にも慣れ、試験時間の配分を考えることができるようになり、徐々に実力が出せるようになっていく。

模試は普段の授業よりも緊張を強いられ、試験時間も長い。模試が終了した途端、どっと疲れを感じた経験が誰にでもあるはずだ。想像してみしてほしい。本番の入試では、より強く緊張や疲労を感じるのだ。

私立大学の入試日程は、2月の月上旬から中旬に重なっていることが多い。受験併願校が「3日あるいは4日連続で入試日が続く」といった日程であった場合、それが気力・体力的に可能かどうか、コンディションをどうやって維持していくのか、検討することができるだろう。このように入試本番をシミュレーションする上でも、模試は非常に有効だ。

模試は能力や適性を分析し、修正点を見出す材料を与えてくれる。個人成績票には、どの教科・科目のどの分野を伸ばせば目標に到達できるのかの手がかりがあるのだ。これをどのように学力向上につなげていくか、そこに受験生としての力量が求められる。

だが、個人成績表に記載された指摘すべてを受験計画に反映させればいいのかといえば、決してそうではない。個人成績票には、今の自分に「足りている部分」「足りない部分」について書かれている。その指摘は採点者の視点であって、やるべきことの優先順位は受験生本人が考えなければいけない。

「模試を活用する」ということは、個人成績票に書かれてあることを闇雲に消化することではない。例えば模試で得点できない原因が、理解が足りないことによるスピード不足だったとする。ただでさえスピード不足のところにも言われたとおりのことをやっても、未消化のまま入試本番を迎えることになるだろう。もちろん努力課題を修得すれば成績向上へつなげることは可能だ。しかし、それがいつになるかは分からない。だからこそ、志望校とのギャップを把握し、自分の能力・適性に合った得点の積み上げ方を考えることが重要なのだ。

共通テスト いよいよ出願へ！

6年生への「受験案内」の配布・志願票記入の説明は9月8日（水）

2022年度（令和4年度）大学入学共通テストへ向けての手続きが始まる。本校でも進路指導部が「受験案内」を申し込み済みである（6年生への配布・説明は9月8日を予定している）。

どのような流れで出願から試験当日まで準備を進めるのか、6年生はもちろん、5年生、4年生もぜひ知っておいてほしい。

出願期間は、9月27日から10月7日まで。実施期日は、2022年（令和4年）1月15日・16日。

疾病や負傷等やむを得ない事情で本試験が実施できない者を対象とした追試験、雪・地震等による災害その他特別の事情により本試験が実施できないまたは完了しなかった場合の再試験は1月29日・30日に行う。

出願方法は、中等教育学校を卒業見込みの者は、志願票に検定料受付証明書を貼付し、在籍する学校を経由して大学入試センターに郵送で提出する。

本校でも6年生全員分の志願票をとりまとめ、学校から出願する。詳細は9月8日（水）に説明するので、よく確認しながら志願票を記入しよう。

時間割は、右表を参照してほしい。第1日は「地理歴史・公民」「国語」「外国語」、第2日は「理科①」「数学①」「数学②」「理科②」を実施する。

受験教科及び科目数については事前登録となっている。各教科の受験の有無、「地理歴史・公民」については受験科目数を、理科については「理科①」「理科②」を受験するのかなどについて、志願票に記入する。

「地理歴史・公民」や「理科」は、1科目でよいのか、2科目受験するのか、受験パターンの選択をよく考えておいてほしい。特に理科は「基礎2科目」の受験を必要とする大学と、「専門1科目」「専門2科目」を課す大学がある。また、理科・社会ともに2科目受験の場合は、教科の第1解答科目をどちらにするか、併願先となる大学まで見据えておくことが必要だ。

検定料は、3教科以上を受験する場合は1万8,000円、2教科以下を受験する場合は1万2,000円。成績通知書の送付を希望する場合には、受験料に追加して800円かかる。検定料の払込期間は9月1日から10月7日まで。出願が受理された入学志願者には、10月下旬までに志願票記入事項の登録内容（氏名、住所、連絡先、受験科目など）についての「確認はがき」が送付される。受験票は12月中旬までに大学入試センターから在籍校へ送付される。受験会場は、受験票に記載されている。

本校の日程 ※緊急事態宣言等により、変更になる場合があります。

共通テスト説明会	令和3年9月8日(水)
検定料等払込み	令和3年9月21日(火)まで
志願票校内締切	令和3年9月22日(水)(下書きの提出は9月10日まで)
出願期間	令和3年9月27日(月)～10月7日(木)
(現役生は在籍校でとりまとめ、一括出願する)	
確認はがき(出願受理通知)の受領	令和3年10月27日(水)までに到着
登録内容(確認はがきに記載されている事項)の訂正	令和3年10月28日(木)まで(校内締め切り)
受験票等の受領	令和3年12月15日(水)までに到着
試験期日	令和4年1月15日(土)・16日(日)

試験期日・試験時間割

期日	出題教科・科目	試験時間
令和4年 1月15日(土)	地理歴史 公民	2科目受験 9:30～11:40 1科目受験 10:40～11:40
	国語	13:00～14:20
	外国語	「英語」 【リーディング】 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」 【筆記】 15:10～16:30 「英語」 【リスニング】 17:10～18:10
1月16日(日)	理科①	9:30～10:30
	数学①	11:20～12:30
	数学②	13:50～14:50
	理科②	2科目受験 15:40～17:50 1科目受験 16:50～17:50

大学入試の基礎知識(第5回)

2022年 国公立大入試日程決定!

6月以降、2022年入試について、文部科学省ならびに大学入試センターから「実施要項」の公表が続いた。2021年の共通テスト(令和3年1月16日、17日実施)は「第1日程・第2日程・特例追試験」の3段階の日程だったが、2022年は「本試験」「追(再)試験」という例年通りの形となった。ただし、コロナ禍対応として「追(再)試験」は、例年は「本試験」の1週間後だが、2022年は「本試験」の2週間後に実施される。これを受け、国立大学協会は7月5日、公立大学協会は6月30日、2022年入試の「実施要領」改訂版を公表した。改訂された主な日程は、以下の通りである。

■2022年 国公立大入試 「実施要領」で改訂された主な日程

		改訂前	改訂後	
一般選抜	個別(2次)試験 出願受付		1月24日～2月2日	1月24日～2月4日
	前期日程	第1段階選抜の結果発表	2月9日まで	2月15日まで
		試験実施	2月25日から	変更ナシ
		合格発表	3月6日～10日 (公立大は3月1日～10日)	変更ナシ
		入学手続	3月15日まで	変更ナシ
	公立大 中期日程	第1段階選抜の結果発表	2月19日まで	変更ナシ
		試験実施	3月8日以降	変更ナシ
		合格発表	3月20日～23日	3月20日～23日 (できるだけ22日まで)
		入学手続	3月27日まで	変更ナシ
	後期日程	第1段階選抜の結果発表	2月28日まで	3月3日まで
		試験実施	3月12日以降	変更ナシ
		合格発表	3月20日～24日 (できるだけ23日まで)	3月20日～23日 (できるだけ22日まで)
		入学手続(国立大)	3月27日まで	3月26日まで
		入学手続(公立大)		変更ナシ
	学校推薦型選抜 総合型選抜	合格発表 (学校推薦型[共テを課さない])	1月21日まで	変更ナシ
合格発表 (学校推薦型[共テを課す]/総合型)		2月9日まで	2月15日まで	
入学手続		2月16日まで	2月21日まで	

※ 国立大学協会・公立大学協会「2022年度入学者選抜についての実施要領」をもとに作成。

※ 追試験等の情報は割愛。

※ 入試日程などは今後、新型コロナウイルスの感染状況等で変更される可能性がある。

この日程変更により、私立大学でも「共通テスト利用入試」の日程見直しが見られる。自分が受験するかもしれない学校は、大学ホームページをこまめに確認しておこう。